

平成 29 年度 静岡福祉文化を考える会 活動計画

活動テーマ：「ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓く」

今日、社会全体が「公助」又は「専門領域」により地域づくりは成し得ている意識が強い。地域の担い手は、一体だれか、「共助」による、市民主体の地域活動を問い質しながら、弱体化した家庭機能を「地域がいかにか、家庭機能化していくことができるか」が浮き彫りになった。

中でも、今日、各地で様々な福祉課題を基に取り組みされている「居場所」。改めて、「地域ぐるみの居場所」とは何かを調査研究活動や公開型研修会等の取り組みから明らかにすることができるかを取り上げる。「真の居場所」は本来家庭にあるはずである。

今日、県内各地で、福祉問題解決に向けた各論的「居場所」が多く誕生している。

コミュニティそのものの機能を発揮して「地域ぐるみの居場所」の取り組みはできないか、そのためには、どのような運営主体、環境整備が求められてくるか等を広く「ワークショップ」を通じて取り組むことができるかを検証する。

平成 29 年度は、本会 21 年間の実績を基に、改めて活動の原点に戻り、「福祉を文化にする、静岡発福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを努力する）とは何かを検証するため、引き続き、平成 27 年度に創作実現した「若者発 ご近所福祉かるた」を最大限活用して、県内各地域や各地の各種研修会において、ワークショップ方式等により、意見交換や討論を交えた多様な学習方法を提案し、世代を超えて地域の課題解決に向けた「地域総合型学習」を実践する。

こうした展開を通じて、本会の理念と活動基調を基に、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、専門性と市民性を融合し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域を「ご近所福祉」と捉えて、さらには支え合うご近所における居場所をテーマに、生活圏域における「地域課題」を掘り起こして、問題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、実践活動に取り組む。

県民の意識と実態を明らかにし、福祉コミュニティの構築に県民一人ひとりが関わることの重要性を明らかにする。

本会活動は、広く意見意見を求めるために「共創社会研究会」を設置して、課題提起をしていく。

平成 29 年度の取り組みの成果を、

- (1) 平成 30 年の本会の活動事業目標に明確に位置づける
- (2) 本事業に協力いただいた関係機関・団体への更なる課題提起を継続していく
- (3) 県内の幅広い領域へ、その都度、本事業で浮き彫りになった課題を提起していく

特に、平成 29 年度においては、

- (1) 新たな節目に向けて、組織体制を充実し、着実に「福祉文化の創造」に向けた実践活動に取り組む。

＊ 代表 (1)、副代表 (2)、事務局長 (1)、次長 (1)、事務局スタッフ (1)、会計 (1)、監事 (1)、委員 (4) 計 12 名

- (2) 若者の参加を呼び掛けていく。特に、発展的活動として 2 年目に入る「若者発“居場所”あり方研究会」（常葉大学同好会）とは、日常的な連携を維持し、これまで本会が課題提起をしてきた「若者の地域参加」「居場所」をより具体的に実践していくよう呼びかけるとともに、本会の活動に積極的に参画できる環境づくりに努め、協働により、「若者発 ご近所福祉かるた」を、さらに実践的・具体提起に活用し、「居場所」に関する研究を深めるとともに、地域課題解決に向けた取り組みをする。

- (3) 市民主体のコミュニティ構築の必要性を、各活動項目に随所に強調し、地域における住民主体の「地域総合型学習」の取り組みと連携を深める。
- (4) 福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業
ーささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言ーを課題とする。これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と、問題意識を持ち、果たして、県民の意識と実態はどうかを把握し、県民に結果をもって課題提起をしていきたい。県民に、これからの福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創り、改めて、「家庭機能」の再認識を持つ機会とし、「真の居場所」を問う。既存の居場所の取り組みを見直す機会を持ち、「地域の担い手」を検証する。
- (5) 「共創社会研究会」の設置より、広く問題提起をしていく。

1. 平成 29 年度全体会（総会／公開型研修会）の開催

- 開催日時：平成 29 年 5 月 21 日（日）13:00～16:00
- 開催会場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- プログラム：
 - (1) 報告「協働による福祉文化実践活動の展開」
 - (2) 調査結果報告「ご近所福祉 その意識と実態調査 結果から見えたもの」
 - (3) 円卓トーク「真の居場所を探る 大人の言い分 若者の言い分」

2. 委員会の開催

- * 実務型委員会構成を基に、[代表][副代表][事務局・次長・スタッフ][会計][監事][委員][会員]が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- * 「ご近所福祉と居場所を探る」をテーマに、ご近所福祉かたるたの有効活用の研究協議と共に、「若者発“居場所”あり方研究会」との協議に取り組む。
 - 第 183 回 05 月 21 日（日）10:00～12:00 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
 - 第 184 回 08 月 06 日（日）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
 - 第 185 回 08 月 26 日（土）13:30 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内
 - 第 186 回 02 月 18 日（日）10:00 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

3. 共創社会研究会の設置と運営

(1) 開催時期

- 第 1 回 09 月 09 日 静岡県総合社会福祉会館 602 42 名定員（1,700 円）
- 第 2 回 11 月 11 日 静岡県総合社会福祉会館 102 36 名定員（1,250 円）
- 第 3 回 01 月 13 日 静岡県総合社会福祉会館 104 36 名定員（1,150 円）
- 第 4 回 03 月 10 日 静岡県総合社会福祉会館 602 42 名定員（1,700 円） 計 5,800 円

(2) 構成

世代・領域を超えた構成で、市民主体の議論

本会会員（5 名）、県内実践者（3 名）、社協職員（2 名） 計 10 名

(3) 議論内容

- 研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題、調査実施
- 調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察
- 実践地区検証、公開型研修会結果考察
- 事業全般考察（提言）

4. 実践活動として、「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用による「ご近所福祉」の検証

7年間の県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」から浮き彫りになった“ご近所福祉の再構築”を、若者の視点から議論を深め、提言された読み札を精査し、「若者発“居場所”あり方研究会」の全面的な支援の基に「かるた」の創作に取り組み、平成27年度に「若者発 ご近所福祉かるた」を100セット作成し、2年目を迎えた。また、平成28年度に作成した「若者発 ご近所福祉かるた 拡大版」2セットを有効活用する。

今年度は、特に「若者発“居場所”あり方研究会」が積極的に地域で「かるた」の活用に取り組むことを期待するとともに、様々な活動状況を本会に情報提供していただき、「ご近所福祉」や「地域ぐるみの居場所」を検証する。

また、「かるた」を幼児から大人まで、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として楽しみながら活用し、安心して暮らし合う生活圏域づくりをめざす働きかけをする。

会員をはじめ、関係機関・団体・個人、各研究会会員、施設・グループ・サロン等に配布・設置した100セットの「かるた」の使用状況を、「若者発“居場所”あり方研究会」と共に検証し課題を整理し、地域社会の問題提起をしていく。

5. 「若者発“居場所”あり方研究会」との連動と協働の呼び掛けと実践

常葉大学同好会として、自主的活動に発展した「若者発“居場所”あり方研究会」との連携を維持し、協働による福祉文化実践活動（本会主催の各種研修会・事業への参加呼び掛け）が出来るように、情報を共有（定例委員会への参加呼び掛け）し、「ご近所福祉」「地域ぐるみの居場所」に関わる研究協議をその都度設定できるように努力する。

6. 現場視察研修

最近開所した県内6地区の居場所実践地区を検証し、プロセスとともに課題解決に向けて取り組み、報告書にまとめる。

- ① 東部（沼津市……住民とコミュニティ組織が協働での取り組み）
- ② 東部（小山町……町部の地域性を活かした取り組み）
- ③ 中部（焼津市……町内会・自治会を基盤とした取り組み）
- ④ 中部（藤枝市……当事者的視点……）
- ⑤ 西部（掛川市……障害者支援を含んだ取り組み）
- ⑥ 西部（菊川市……地域性を活かした取り組み）

7. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、広く住民の意見を把握する。（熱海市・湖西市・菊川市）

- 住民主体の啓発学習の取り組みのプロセス
- 住民主体の居場所の取り組みの検証
- 住民の意見集約

8. 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり」報告書作成

＊ A4版、60ページ仕立て、100部

＊ 主な章立て

- | | |
|---------------|---------------|
| ➤ はじめに | ➤ 調査結果から見えたもの |
| ➤ 事業取り組みの背景 | ➤ 「共創社会研究会」論議 |
| ➤ 公開型研修会からの結果 | ➤ 提言 |
| ➤ 実践からの学び | ➤ 資料編 |

＊ 配布計画

- 協力団体（社会福祉協議会）
- 関係機関（県・市町）
- 関連大学専門学校
- 企業
- 関連福祉団体

9. 啓発学習活動

「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「公開型研修会」「公開型学習会」として開催する。

(1) 公開型学習会の開催

「定例委員会」（年４回）を「公開型学習会」と位置づけ、誰でも自由に参加できることを呼びかけ、市民・会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげる。

（5/21, 8/6, 11/25, 3/4）

(2) 公開型研修会の開催

できる限り、小地域の生活圏域で地域の課題解決に向けた話し合いの場を創り、「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「ご近所福祉と地域ぐるみの居場所」と置き換えて、自由に市民が参加できる「公開型研修会」を開催する。

- 第１回 ５月２１日（日）１３：３０ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
研修テーマ：「ご近所福祉と居場所」
 - ① 基調報告「協働による福祉文化実践活動の展開」
 - ② 円卓トーク「真の居場所 大人の言い分 若者の言い分」
- 第２回 ９月３０日（土）１３：３０ 静岡市葵区駿府町 県総合福祉会館 601 会議室
研修テーマ：「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く」
 - ① 基調報告
 - ② 実践活動に学ぶ
 - ③ ワークショップ
- 第３回 ３月４日（日）１３：３０ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
研修テーマ：「今なぜ居場所か」
 - ① 報告「若者から見た居場所」
 - ② グループワーク「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

(3) 「第 16 回 静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- 日 時：１１月２５日（土）１３：３０～１６：３０
- 会 場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- テーマ：「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」
 - ① 基調報告 その１「福祉文化研究セミナー１６年を振り返る」
 - ② 基調報告 その２「地域の居場所 その意識と実態を探る」
 - ③ ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を探る」

10. 調査研究活動

＊ テーマ：「居場所ってなに？ その意識と実態調査」の実施

＊ ねらい：

「静岡福祉文化を考える会」は、この 21 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 平成 09 年度 ①「共働きに関する調査」
- 平成 10 年度 ②「私たちにとって、地域とは何かーその 1ー意識と事態調査」
- 平成 11 年度 ③「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 平成 12 年度 ④「父親に関する調査」
- 平成 13 年度 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」
- 平成 14 年度 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 平成 15 年度 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」
- 平成 16 年度 ⑧「地域とは何かーその 2ー意識と事態調査」
- 平成 17 年度 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」（継続調査）
- 平成 18 年度 ⑩「子どもと社会環境に関する調査」（総括）
- 平成 19 年度 ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 平成 20 年度 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」（静岡県共同募金会助成事業）
⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」（静岡県委託事業）
- 平成 21 年度 ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 22 年度 ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとはなにか本音に迫る調査」（静岡県委託事業）
- 平成 23 年度 ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 24 年度 ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 25 年度 ⑱「長寿者とつながる ホットするご近所づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 26 年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）
- 平成 27 年度 ⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 平成 28 年度 ㉑「ご近所福祉 その意識と実態調査」

と、「21 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算 22 回目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、引き続き「若者発 ご近所福祉かるた」の活用を通して各領域からいただいた意見を基に「居場所ってなに？その意識と実態調査」として、200 名程度の規模で実施。

＊ 調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言（自由意見）の 7 項目とする。細部は「共創社会研究会」で具体化する。

＊ 調査の展開：

- (1) 調査実施期間……09 月～10 月
- (2) 入力期間………10 月～11 月
- (3) 分析・考察………12 月～01 月
- (4) 公表………02 月

＊ 協 力：若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会

- * 対 象：静岡県内の 10 代以上の県民（年代・世代・領域等を考慮）
- * 回収目標：約 1,000 名程度
- * 調査依頼／配布方法：
 - (1) 会員（現在 24 名）
 - (2) 若者発“居場所”あり方研究会
 - (3) 関係団体
 - (4) 企業

11. 広報・啓発活動

(1) 「機関誌発行計画」に基づき『Our Life』の発行

- * 年 6 回 A4 版 4 ページ構成 上質紙印刷 200 部発行
- * 各号共通記事：「コラム」「事務局日誌拝見」「編集後記」
 - 第 111 号（07/05） 『「若者発 ご近所福祉かるた」活用のひろがり』
 - 第 112 号（08/30） 『福祉文化実践活動あれこれ①』
 - 第 113 号（10/01） 『福祉文化実践活動あれこれ②』
 - 第 114 号（12/15） 『第 16 回 福祉文化研究セミナーからの学び』
 - 第 115 号（02/15） 『この 22 年間を振り返る 調査研究活動の成果①』
 - 第 116 号（03/15） 『この 22 年間を振り返る 調査研究活動の成果②』
- * 今年度取り組む「居場所」をテーマとした課題提起，地域・団体との連携の状況，各地区から寄せられた「若者発 ご近所福祉かるた」の取り組みの紹介と「若者発“居場所”あり方研究会」の活動レポート紹介等を掲載する。

(2) マスコミ，関連団体への情報提供

12. 関係・団体との連携

- (1) 「若者発 ご近所福祉かるた」及び「拡大かるた」設置団体等との日常的連携（施設，NPO 法人，V グループ）
- (2) 「若者発“居場所”あり方研究会」との協働
- (3) あしたの日本を創る協会との連携（助成事業の進捗状況報告）
- (4) 日本福祉文化学会との情報交換
- (5) 関連大学・専門学校への情報提供
- (6) 静岡県社会福祉協議会（ふれあい基金助成事業進捗状況報告）への報告
- (7) 静岡市ボランティア団体連絡協議会との連絡調整
- (8) ふじのくに未来財団との連携（助成事業の進捗状況報告）